

百舌鳥・古市古墳群(大阪府堺市・藤井寺市/羽曳野市)

大東文化大学オープンカレッジ 平成30年春「百舌鳥・古市古墳群の形成」講座資料より



仁徳天皇陵古墳

堺市役所21階展望ロビーより見た仁徳天皇陵古墳(大仙陵古墳)/前方後円墳/左手が後円部、右手が前方部



前方に見える鳥居の所は前方部手前にある拝所



説明板が立っている



前方後円墳集成編年表によると7期(5世紀中頃)の築造とされ、仁徳天皇の実年代とはズレがあり、この古墳の被葬者は倭の五王の済とされる允恭天皇ではないかとも云われる

仁徳天皇陵古墳(仁徳天皇百舌鳥耳原中陵)

仁徳天皇陵古墳は、わが国最大の前方後円墳です。第16代仁徳天皇の陵に定められ、宮内庁により「仁徳天皇百舌鳥耳原中陵」として管理されています。

墳丘の全長486m、後円部の直径249m、前方部の幅307m、周濠を含めた南北の長さ840m、東西の長さ654m、周囲の距離2,718メートル、面積464,124㎡で、その大きなことから「大仙陵」とも呼ばれています。

三段に築かれた墳丘はくびれ部の両側に造り出しを備え、墳丘の周囲には三重の周濠が巡ります。さらにその外側には、多くの陪冢(ばいちょう・ばいづか:大型前方後円墳の周囲に造られた小古墳)が造られました。ある試算によれば、仁徳天皇陵古墳を造るには一日最大2,000人が従事して15年8か月の年月が必要で、延べ680万人もの人々が従事したとされており、莫大な労力が費やされたことがわかります。

明治5年(1872)9月、前方部正面の第二段目斜面で竪穴式石室が発見されました。石室には長持形石棺という石製の棺が納められ、金銅製の甲冑・刀・ガラス製の容器などの副葬品が見つかりましたが、もとの通り埋め戻したとされています。これらのうち石棺と甲冑を精密に写した絵図が伝えられており、その内容を具体的に知ることができます。

墳丘や堤には、3万本近い埴輪が立て並べられていました。円筒埴輪のほか女性埴輪や馬形埴輪、水鳥形埴輪などが出土していますが、それらの製作年代より5世紀中頃に古墳が完成したと考えられています。

『日本書紀』によると、仁徳天皇67年の10月5日に、仁徳天皇がこの地に行幸して陵地を定められ、同月18日から工事が始まりました。この時、鹿が野原から走り出て来て、工事に従事している人々の中で倒れました。人々が調べてみると、鹿の耳から百舌鳥が飛び去り、耳の中が喰いさかれていたので、この場所を「百舌鳥耳原」と名づけたと記されています。

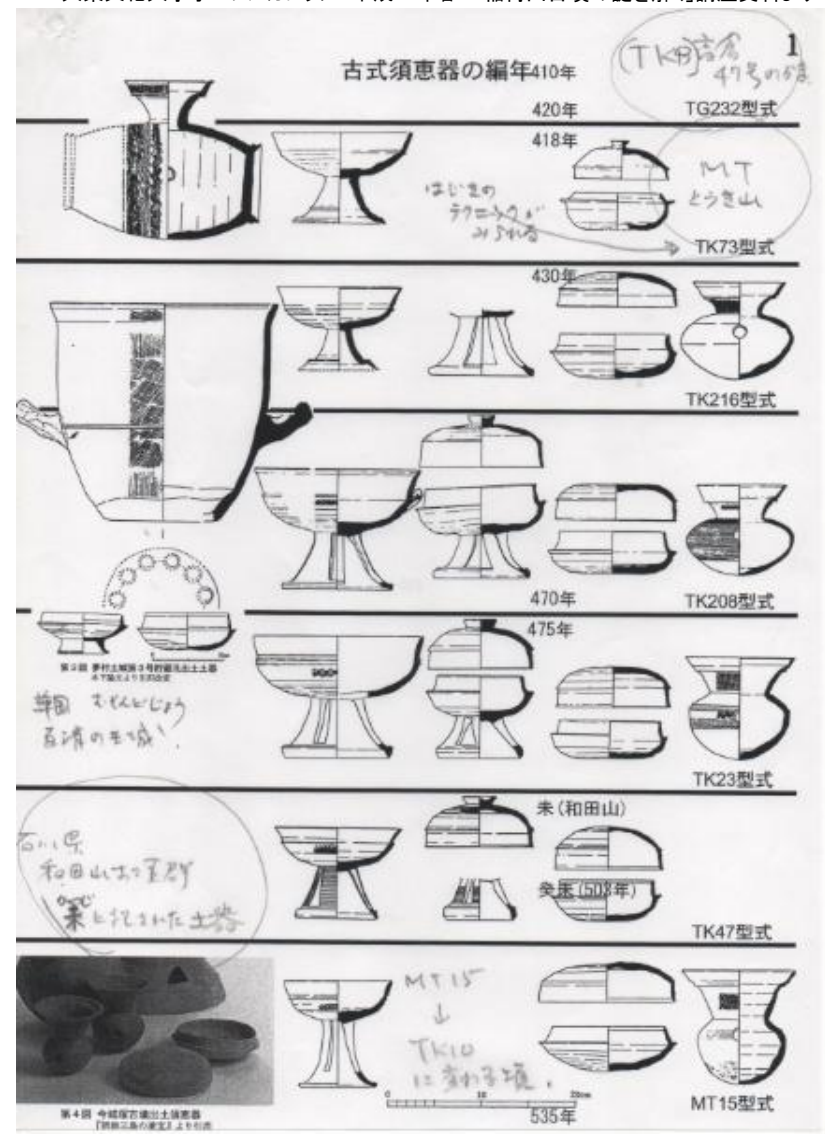
仁徳天皇は、それから20年後の仁徳天皇87年正月16日になくなり、同年10月7日に百舌鳥野陵に葬られました。(『古事記』には、「御陵は毛受耳原にあり」と記されています。)

前方後円墳集成編年表/インターネット「ウィキペディア」より

K15. 前方後円墳時代の3期区分

区分	実年代	集成	円筒	須惠器
前期	3世紀中	1期		
		2期	I式	
		3期	II式	
		4期	II式	
中期	4世紀末	5期	III式	TG232
		6期	IV式	TK73
	5世紀後半	7期	IV式	TK216 TK208
後期	5世紀末	8期	V式	TK23 TK47
		9期	V式	MT15 TK10
	7世紀初	10期	V式	TK43 TK209

大東文化大学オープンカレッジ 平成29年春 「稻荷山古墳の謎を解く」講座資料より



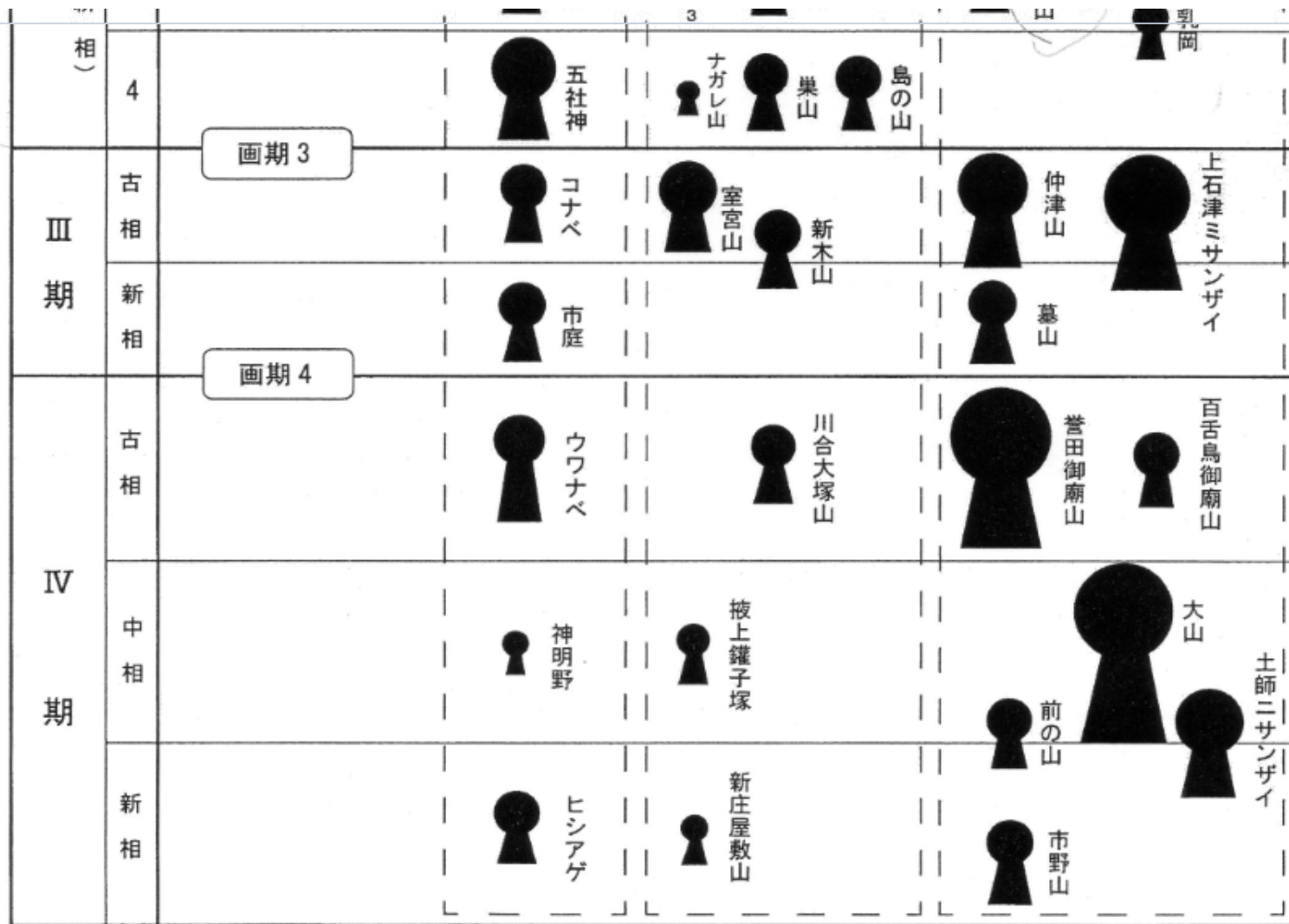
地域		奈良盆地東南部	奈良盆地北部	奈良盆地西南部	大阪平野
I 期	埴輪以前	箸墓			
	古相	中山大塚 西殿塚	桜井茶臼山		
	中相	東殿塚	メスリ山		
II 期 (古相)	新相	行燈山	佐紀古墳群	馬見古墳群 新山	
	1	榊山	陵山 マエ塚	別所下	
	2	上の山 渋谷向山	宝来山	宝塚	古市・百舌鳥古墳群
III 期 (新)	3	大和・柳本古墳群	石塚山	ナガレ山北 築山	津堂城山

円筒型

手鏡型 (20世紀)

ラップ

400年



王権中枢部大型古墳群の消長と埴輪編年の画期

廣瀬 覚『古代王権の形成と埴輪生産』より

3 古市・百舌鳥古墳群の形成

古市古墳群の主要古墳を前方後円墳集成編年表に基づいてあげると以下のようなになる。

- 4期 津堂城山(●208) 古室山(●150) ニツ塚(●110) 盾塚(◎64) 岡(□33)
- 5期 仲津山〔仲姫皇后陵〕(●290) 墓山(●225) 野中宮山(●154) 大鳥塚(●110) 高塚山(□50)
- 6期 誉田山〔応神天皇陵〕(●425) はざみ山(●103) 青山(◎73) 鞍塚(○39) アリ山(□45)
珠金山(□28)
- 7期 市野山〔允恭天皇陵〕(●230) 軽里大塚〔日本武尊陵〕(●190) 黒姫山(●116) 唐櫃山(◎53)
長持山(○40) 藤の森(○22) 野中(□34)
- 8期 岡ミサンザイ〔仲哀天皇陵〕(●242) 峯が塚(●98) 高屋八幡塚〔春日山田皇女陵〕(●85)
鉢塚(●60) 蕃上山(◎53) 矢倉(◎30) 青山2号(◎33)
- 9期 河内大塚山(●335) 野中ボケ山〔仁賢天皇陵〕(●122) 高屋築山〔安閑天皇陵〕(●122)
白髪山〔清寧天皇陵〕(●115) 小白髪山(●46)

前方後円墳集成の編年表は、川西編年Ⅱ期の埴輪を持つ古墳を期と4期に細分しているが編年指標に錯誤があり、廣瀬 覚氏のⅡ期を細分した編年に比べると津堂城山古墳の細かい時期などを把握しにくい、まず5期からより大きい古墳が築造されたことを読みとることができる。表なので巨大古墳の周囲に陪家と呼ばれるような帆立貝形古墳(◎)、円墳(○)、方墳(□)が形成されたことは判りにくい、王権を構成する人達の階層構造が垣間見られる。おそらく、方墳の被葬者には渡来系の人が含まれていたと推察される。また、1

00m級前方後円墳の被葬者には宋書に記された郡号を与えられたもの、200m以上の前方後円墳の被葬者には倭王、倭隋のように將軍号を与えられたものが想定される。古市古墳群には、10期の前方後円墳が認められないが、後述するように9期に前方後円墳が形成されなくなる百舌鳥古墳群に比べて、遅くまで前方後円墳が形成されていた。その違いを見るために、百舌鳥古墳群の主要古墳を前方後円墳集成編年表に基づいてあげることにしよう。

4期 乳の岡(●155)

5期 石津丘〔履中天皇陵〕(●360) 百舌鳥大塚山(●159)

6期 いたすけ(●146)

7期 大山〔仁徳天皇陵〕(●486) 土師ニサンザイ(●290) 御廟山(●186)

田出井山〔反正天皇陵〕(●148) 永山(●104) 長塚(●100) 丸保山(◎87) 城の山(●77)

定の山(◎74) 銭塚(◎70) 竜佐山(◎67) 収塚(◎65) 旗塚(◎56) 文殊塚(●53)

こうじ山(◎51)

8期

9期 平井塚(●58)

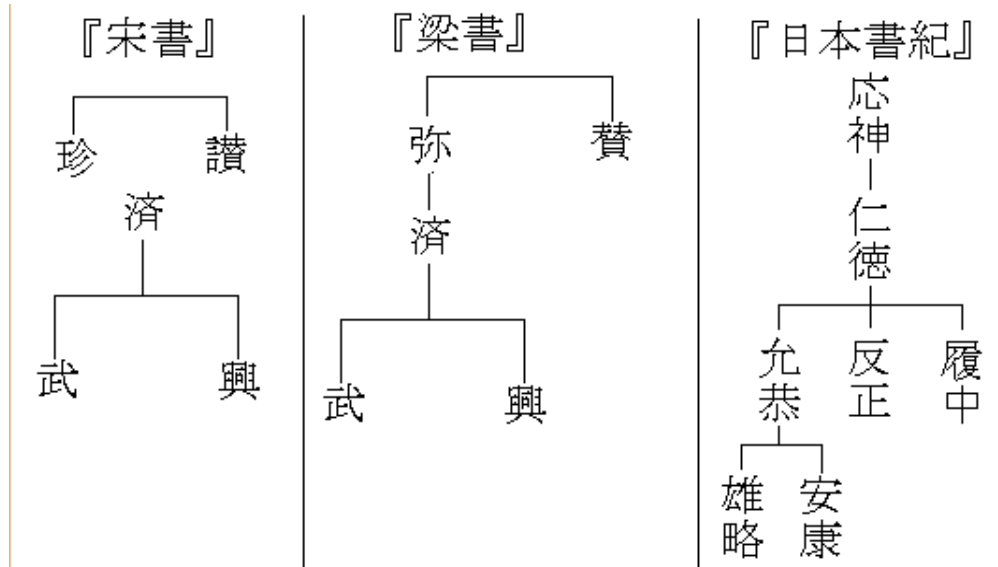
ここでは、藤間生大『倭の五王』岩波新書から五王の即位年等を引用し、巨大古墳と倭五王の対応関係を示す作業を行うことにする。

- ① 413年 義熙九年 倭国方物を献ず。(晋書安帝紀)
- ② 421年 永初二年 倭讚に除授。(宋書倭国伝)
- ③ 425年 元嘉二年 讚又、司馬曹達を遣わし方物を献ず。(宋書倭国伝)
- ④ 430年 元嘉七年 倭国王、使いを遣わして方物を献ず。(宋書文帝紀)
- ⑤ 不 明 讚死して弟珍立つ。使いを遣わし貢献。自ら使持節都督倭・百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事・安東大將軍・倭国王を称し、安東將軍・倭国王に除せられる。また、倭隋等十三人に平西・征虜・冠軍・輔国將軍号を求め、許される。(宋書倭国)
- ⑥ 438年 元嘉一五年 倭国王珍を安東將軍となす。(宋書文帝紀)
- ⑦ 443年 元嘉二十年 倭国王済、使いを遣わして奉獻する。倭国王済を復た以て安東將軍・倭国王となす(宋書倭国伝)
- ⑧ 451年 元嘉二八年 倭王倭済を安東將軍から安東大將軍に進める(宋書文帝紀)
// 倭王済に使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事を加え、安東將軍は故の如し。并に二十三を軍・郡に除す。

- (宋書倭国伝)
- ⑨ 不明 済死す。世子興、使いを遣わして貢献する。(宋書文帝紀)
- ⑩ 460年 大明四年 倭王使いを遣わして貢献する。(宋書孝武帝紀)
- ⑪ 462年 大明六年 倭王世子興を安東將軍・倭国王とする(宋書倭国伝)
- ⑫ 不明 興死んで弟武立ち、自ら使持節都督倭・百濟・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国書軍事・安東大將軍・倭国王と称す(宋書倭国伝)
- ⑬ 477年 昇明元年 倭国使いを遣わして献物する。(宋書順帝紀)
” 封国はで始まる上表文を出す。(宋書倭国伝)
- ⑭ 478年 昇明二年 倭国王武を安東大將軍となす(宋書順帝紀)
” 上表文を出す。使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍・安東大將軍・倭王に除す(宋書倭国伝)
- ⑮ 479年 建元元年 倭王武を安東大將軍から鎮東大將軍となす(南齊書倭国伝)
- ⑯ 502年 天監元年 倭王武を鎮東大將軍から征東將軍に進める(梁書武帝紀)

禰 ^ひ の没年	412年頃	不明
讚の没年	429年頃	在位年 17年
珍の没年	442年頃	在位年 13年
済 ^{せい} の没年	459年頃	在位年 17年
興の没年	469年以前	在位年 10年弱
武の没年	491年頃	在位年 23年

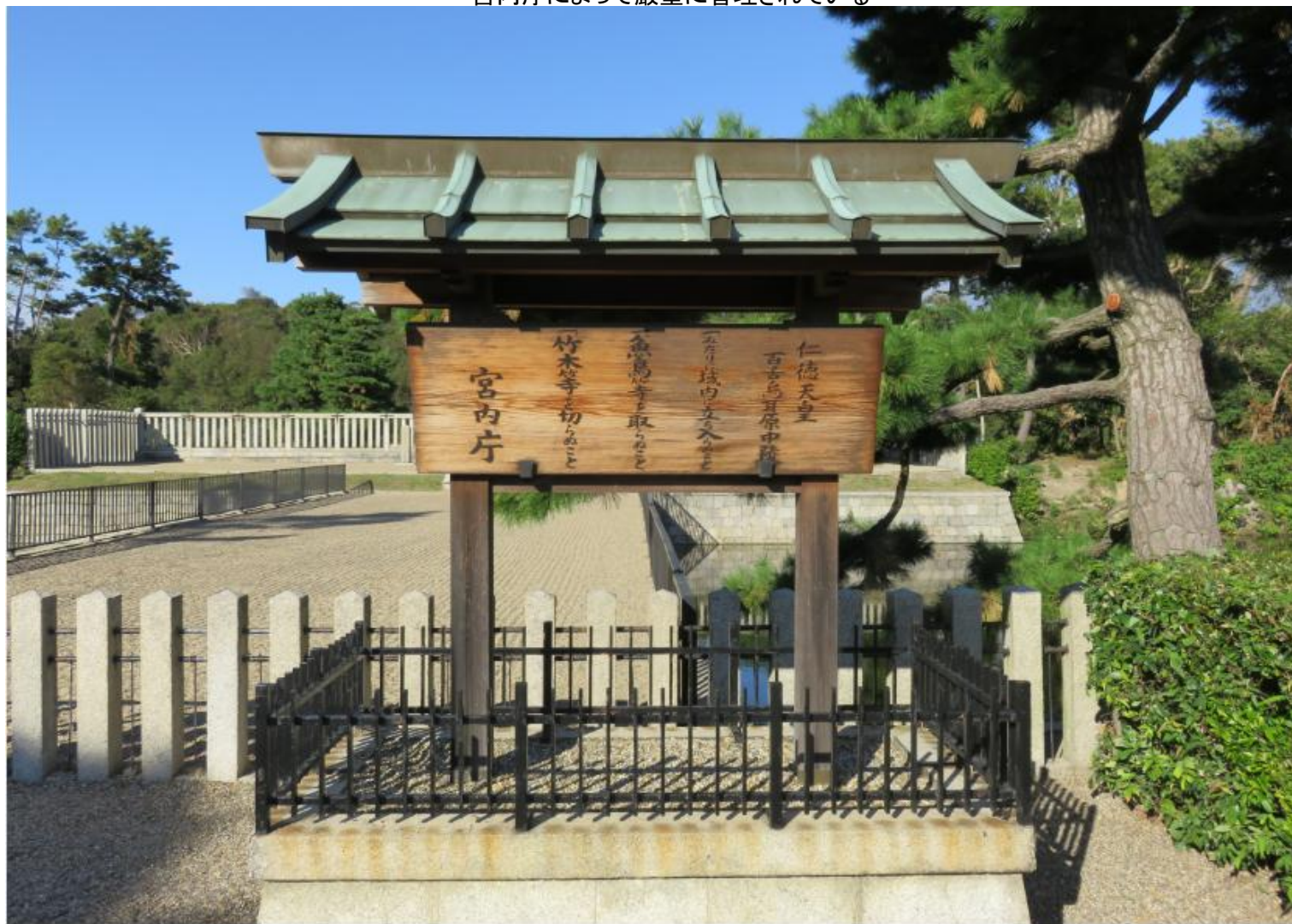
インターネットより



ここが拝所/背後が前方部



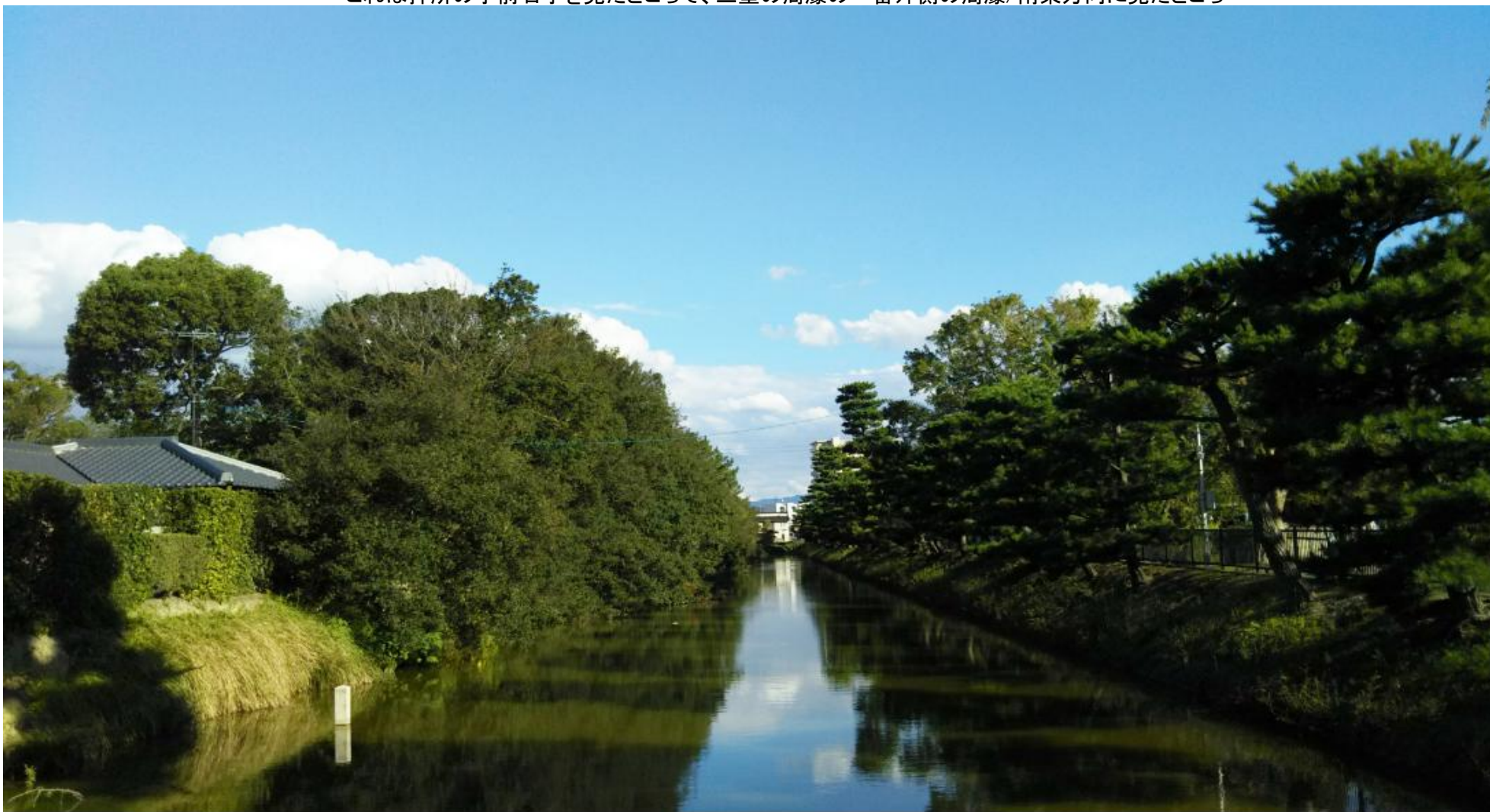
宮内庁によって厳重に管理されている



こな塩梅



これは拝所の手前右手を見たところで、三重の周濠の一番外側の周濠/南東方向に見たところ



その周濠に沿って南東方向へ歩いてみる



これは南東の隅で前方部を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ/このずっと先が後円部

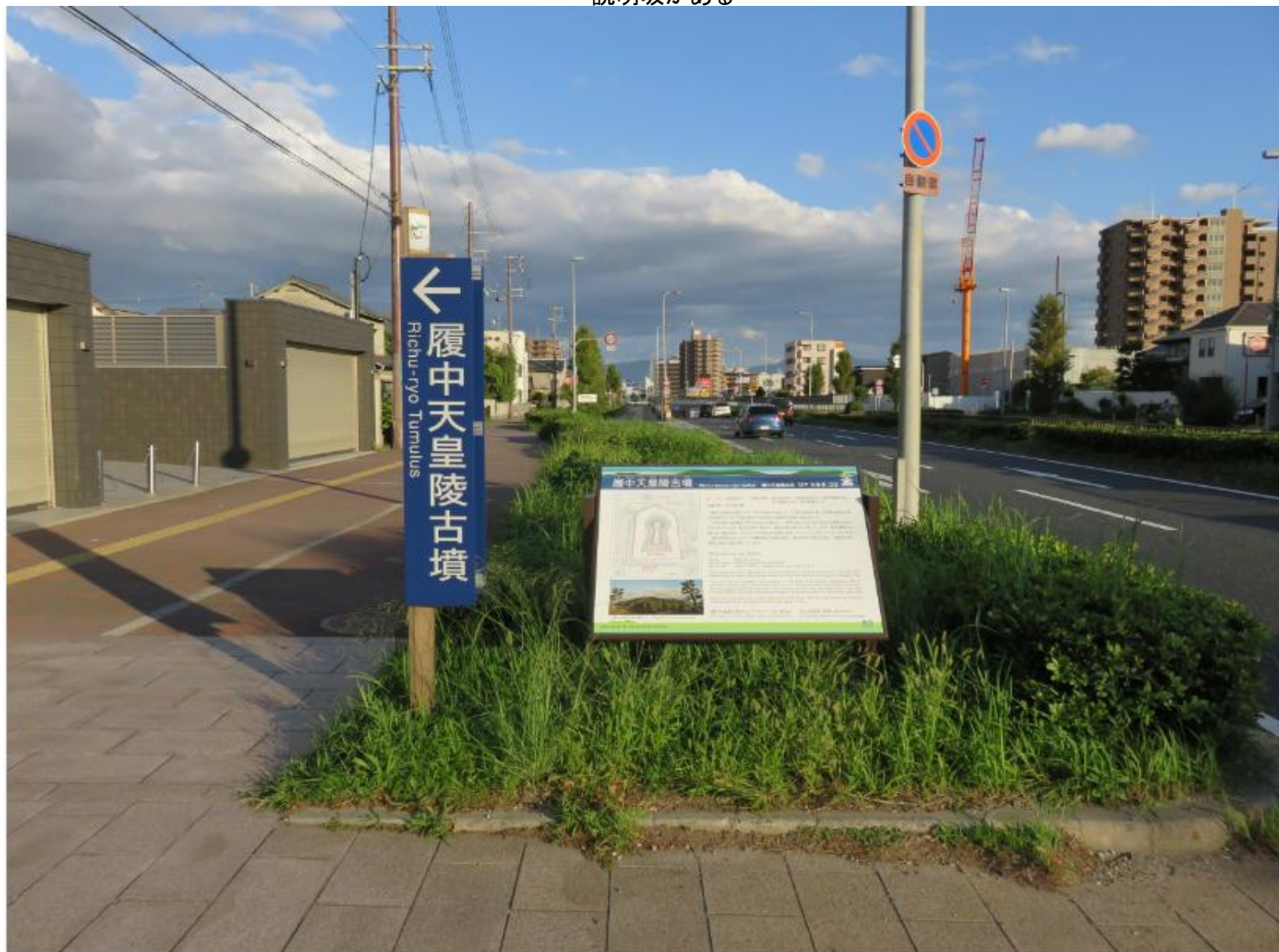


履中天皇陵古墳

堺市役所21階展望ロビーより見た履中天皇陵古墳(上石津ミサンザイ古墳あるいは石津丘古墳)/前方後円墳/中央が後円部、右奥が前方部



説明坂がある



前方後円墳集成編年表によると5期(5世紀前半)の築造とされ、仁徳天皇陵古墳よりも前となってしまう、相互の矛盾が指摘されている/この古墳の被葬者は倭の五王の讚の候補である履中天皇とされる

履中天皇陵古墳

Richu-tenno-ryo Kofun 履中天皇陵古墳 리추 천황릉 고분



時代 5世紀前半 古墳の規模 墳丘長365m、後円部径205m、後円部高27.6m、前方部幅235m、前方部高25.3m

古墳の形 前方後円墳

履中天皇陵古墳はミサンザイ古墳とも呼ばれ、仁徳天皇陵古墳、応神天皇陵古墳(羽曳野市)に次いで墳丘長が日本第3位の規模を誇る前方後円墳です。

台地の端に海岸線と平行するように築かれ、古墳が海からよく見えるように築かれたと考えられています。墳丘は3段に築かれ、築造当時の姿をよく保っています。墳丘周囲には幅の広い濠が巡り、さらにその外側には外濠が全周していたことが明らかになっています。

濠の周囲には、かつて10基前後の古墳があり、現在も寺山南山古墳、七観音古墳、経堂古墳の3基が残っています。

Richu-tenno-ryo Kofun

Period Early 5th century
Mound shape Keyhole-shaped mounded tomb
Mound size Length: 365 m, Height (round rear part): 27.6 m

Richu-tenno-ryo Kofun (Mausoleum of Emperor Richu) is a keyhole-shaped tomb with the third largest mound in Japan, after Nintoku-tenno-ryo Kofun and Ojin-tenno-ryo Kofun in Habikino City.

The tomb was built parallel to the coastline, on the edge of the plateau, apparently with an awareness of how well it could be seen from the sea. The mound was constructed in three tiers, and the original shape from the time of its construction has been well preserved. It has been revealed that an outer moat originally went around the entire perimeter of the current wide moat.

There were once about ten smaller tombs around the moat, with three still remaining: Terayama-minamiyama Kofun, Shichikannon Kofun and Kyodo Kofun.



履中天皇陵古墳(南東から) Richu-tenno-ryo Kofun (from the southeast)

履中天皇陵古墳(ビュースポット): 北へ約1km

Richu-tenno-ryo Kofun (viewing spot): 1 km to the north

JR上野芝駅: 南東へ約400m

JR Uenoshiba Station: 400 m to the southeast

前方に拝所の鳥居が見える



宮内庁によって厳重に管理されている



拝所へ進む



ここが拝所



右手から見たところ



左横から見たところ



前方部を見たところ



左手を見たところ



右手を見たところ



南東の隅から前方部を見たところ



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



反正天皇陵古墳

堺市役所21階展望ロビーより見た反正天皇陵古墳(田出井山古墳)/前方後円墳/左手が前方部、右手が後円部



ここが拝所/説明坂が立っている



前方後円墳集成編年表によると7期(5世紀中頃)の築造とされる

はん ぜい てん のう りょう こ ぶん 反正天皇陵古墳

Hanzei-tenno-ryo Kofun 反正天皇陵古墳 한제이 천황릉 고분



時代 5世紀中頃 古墳の規模 墳丘長148m、後円部径76m、後円部高13m、
古墳の形 前方後円墳 前方部幅110m、前方部高14.8m

反正天皇陵古墳は田出井山古墳とも呼ばれ、百舌鳥古墳群の北端に築かれた前方後円墳です。造られた場所は大阪湾を望む台地の端にあたり、古墳の向きが海岸線に沿っていることから、古墳が海からよく見えるように築かれたと考えられています。

墳丘は3段に築かれており、西側のみに造り出しがあります。かつては現在の濠の周囲に外濠が巡っていましたが、遅くとも14世紀には埋まったようです。外濠からは埴輪や須恵器、勾玉が見つかっています。東側には天王古墳と鈴山古墳があります。

Hanzei-tenno-ryo Kofun

Period Mid-5th century
Mound shape Keyhole-shaped mounded tomb
Mound size Length: 148 m, Height (square front part): 14.8 m

Hanzei-tenno-ryo Kofun (Mausoleum of Emperor Hanzei) is a keyhole-shaped tomb built at the northern end of the Mozu Kofungun (mounded tomb group). Since the tomb site is located on the edge of the plateau overlooking Osaka Bay and the tomb lays parallel to the coastline, it is believed that this kofun was built so that it would be visible from the sea.

The mound was constructed in three tiers and a projection was attached only to the western side of the constricted part. An outer moat originally surrounded the current moat, but it has been buried in the 14th century or earlier. Artifacts such as *haniwa* (earthenware funerary sculptures), *Sue* ware (stoneware), and *maga-tama* (comma-shaped beads) were excavated from the outer moat.

There are Tenno Kofun and Suzuyama Kofun on the eastern side of this kofun.



外濠の葺石
Paving stones (outer moat)



上空から見た反正天皇陵古墳(東から)
Aerial view (from the east)

鈴山古墳: 東へ約200m
Suzuyama Kofun: 200 m to the east

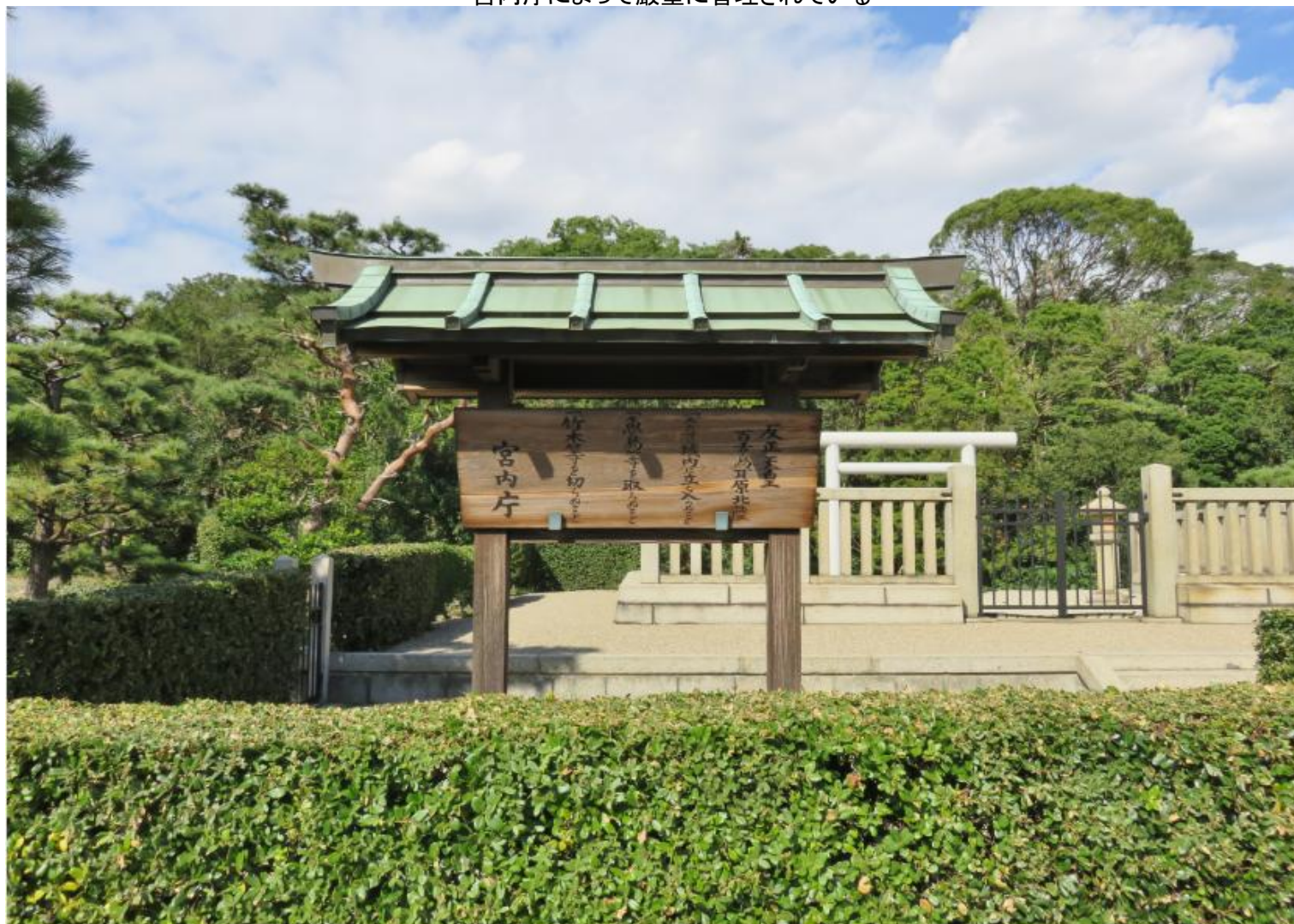
永山古墳: 南へ約1.3km
Nagayama Kofun: 1.3 km to the south

方違神社: 北へ約550m
Hochigai Shrine: 550 m to the north

背後が反正天皇陵古墳/左手が前方部、右手が後円部



宮内庁によって厳重に管理されている



右手に標柱が立っている



「反正天皇百舌鳥耳原北陵」と記されている



右手に後円部方向に回る



後円部の北側にある方違神社から後円部を見たところ



その左手を見たところ



右手を見たところ



ニサンザイ古墳

堺市役所21階展望ロビーより見たニサンザイ古墳(又は土師ニサンザイ古墳)/前方後円墳/左手が後円部、右手が前方部/前方後円墳集成編年表によると7期(5世紀中頃)の築造とされ、この古墳の被葬者は倭の五王の興の候補である安康天皇ではないかと云われる



いたすけ古墳

これが、いたすけ古墳/前方後円墳/前方後円墳集成編年表によると6期(5世紀前半)の築造とされる



右手を見たところ/古墳への木橋が壊れている



正面が丁度くびれ部の辺りか/左手が前方部、右手が後円部



左手の前方部方向を見たところ



右手の後円部方向を見たところ



後円部を回り込む

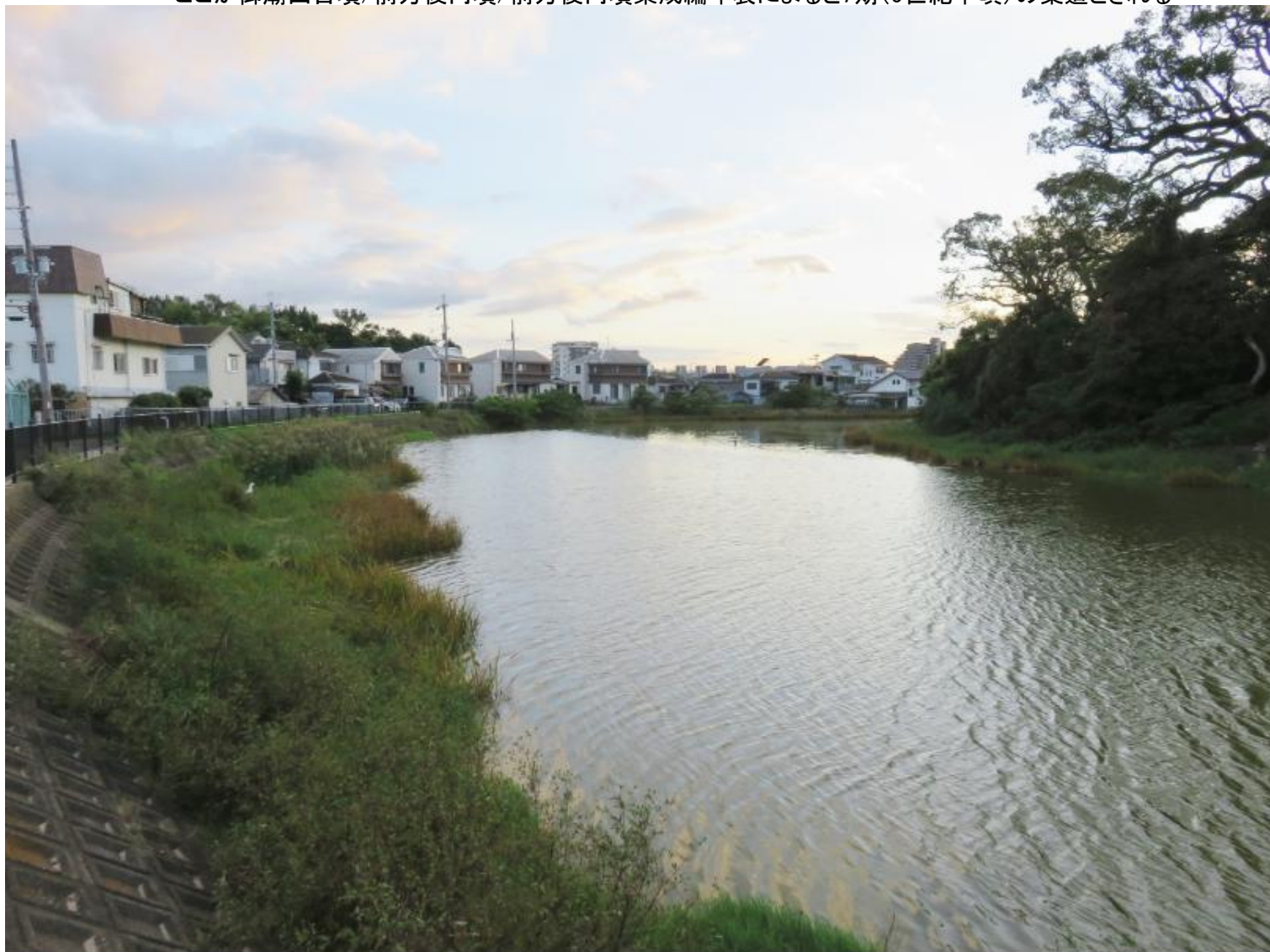


こな塩梅



御廟山古墳

ここが御廟山古墳/前方後円墳/前方後円墳集成編年表によると7期(5世紀中頃)の築造とされる



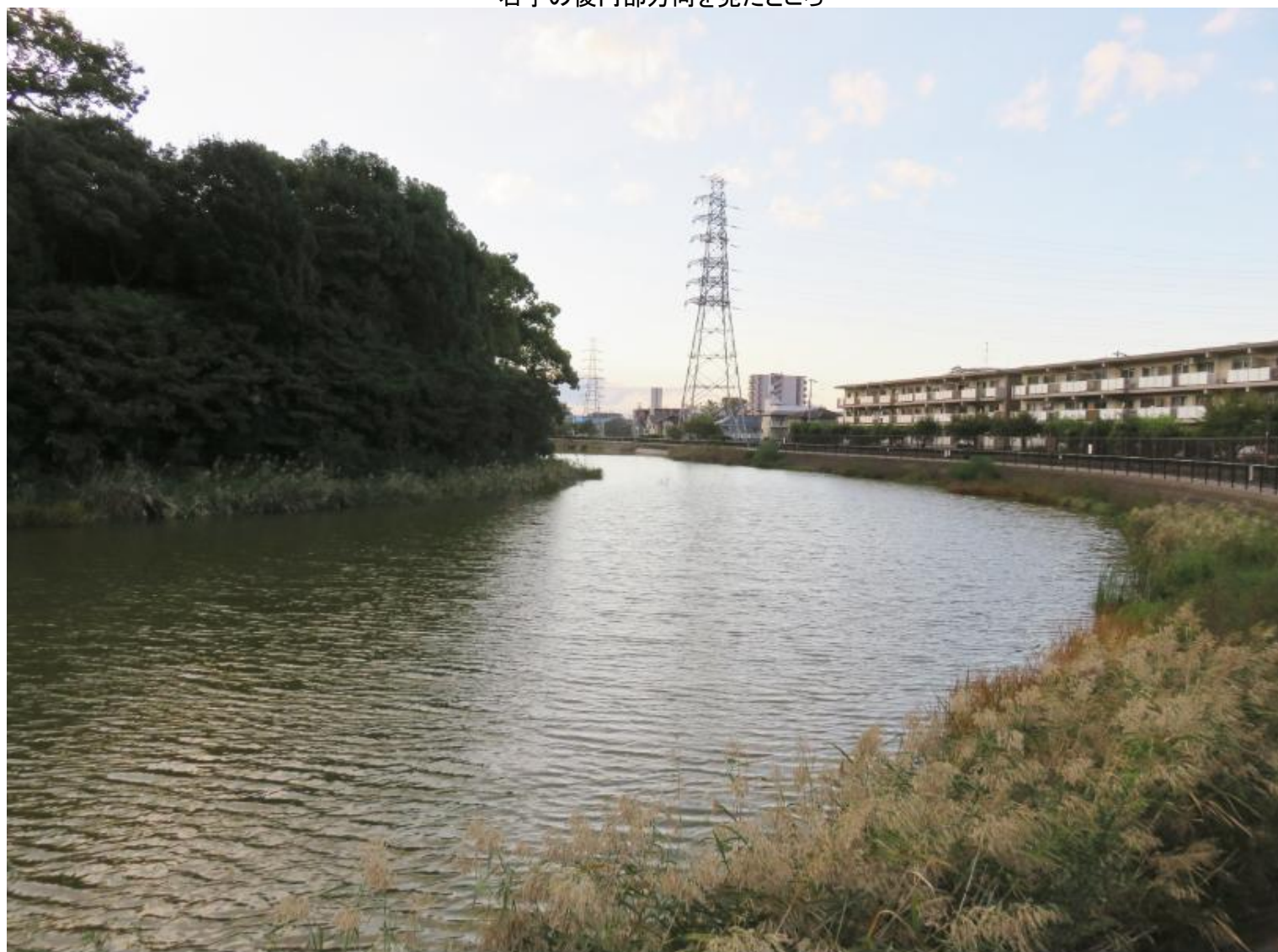
右手を見たところ/左奥が前方部、右手前が後円部



「百舌鳥陵墓参考地」と記された宮内庁の看板が立っている



右手の後円部方向を見たところ



収塚古墳

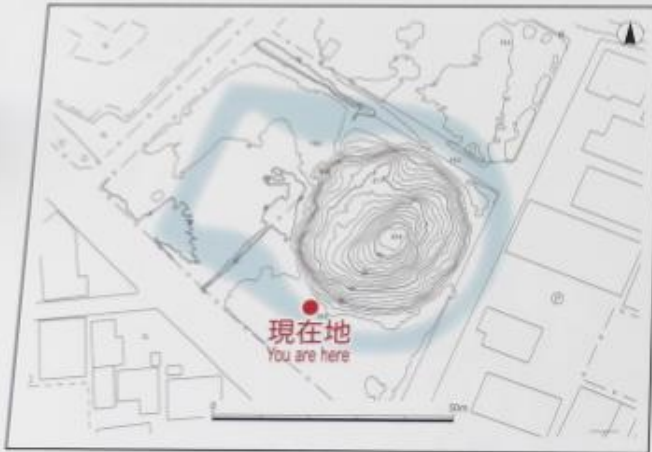
おさめづかこふん

収塚古墳/帆立貝形前方後円墳/前方後円墳集成編年表によると7期(5世紀中頃)の築造とされる



おさめ づか こ ぶん 収塚古墳

Osamezuka Kofun 収塚古墳 오사메즈카 고분



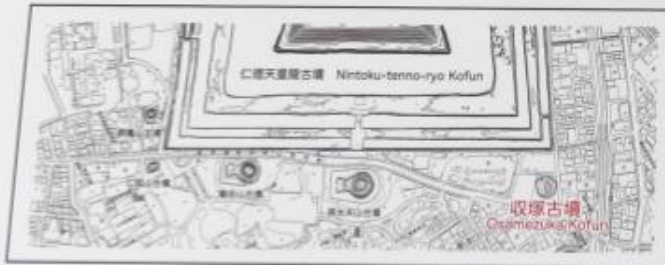
時代 5世紀中頃
古墳の形 帆立貝形前方後円墳

古墳の規模 墳丘長59m、後円部高4.2m
国史跡 1958年5月14日指定

仁徳天皇陵古墳の陪冢の一つで、もとは前方部が短い帆立貝のような形をした前方後円墳でした。濠と前方部の形は地面のブロックの色を変えて表し、当時の姿を示しています。

墳丘や濠からは、円筒埴輪や朝顔形埴輪、蓋形埴輪のほか高杯や器台などの須恵器が見つかりました。また、かつて後円部には鉄製短甲の破片が散らばっていたとも伝わっています。

陪冢：大型古墳の周囲に築かれた中小の古墳



Osamezuka Kofun

Period Mid-5th century
Mound shape Scallop shell-shaped mounded tomb
Mound size Length: 59 m, Height of the round rear part: 4.2 m

Designated as a national Historic Site on 14 May 1958

Osamezuka Kofun is one of the satellite tombs of the giant Nintoku-tenno-ryo Kofun, and it originally had a scallop shell-shaped mound, a type of keyhole-shaped tomb with a shorter front square part. The ground surface paved with blocks in different colors shows the original outlines of the square part and the moat at the time of construction.

Cylindrical *haniwa* (earthenware funerary sculptures) with and without flaring mouth, sunshade-shaped *haniwa*, as well as *Sue* ware (stoneware), have been excavated from the mound and the moat. These artifacts were produced in a slightly earlier period than those found at Nintoku-tenno-ryo Kofun.



前方部の葺石(西から)



後円部の葺石・埴輪(北東から)

手前が前方部で奥が後円部



孫太夫山古墳

前方が孫太夫山古墳/前方後円墳/5世紀前半の築造/左手が後円部、右手が前方部



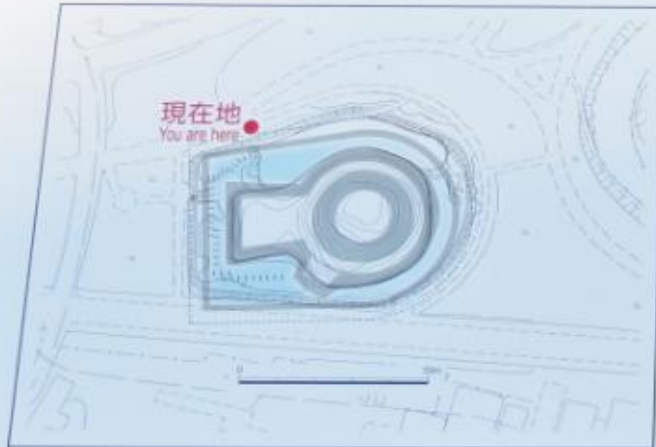
旗塚古墳

前方が旗塚古墳/帆立貝形前方後円墳/前方後円墳集成編年表によると7期(5世紀中頃)の築造とされる/左奥が後円部、右手前が前方部



はた づか こ ぶん 旗塚古墳

Hatazuka Kofun 旗塚古墳 하타쓰카 고분



時代 5世紀中頃
古墳の形 帆立貝形前方後円墳
古墳の規模 墳丘長57.9m、後円部直径41.5m、
後円部高3.8m、前方部幅24.7m

国史跡 2014年3月18日指定
史跡名称 百舌鳥古墳群

旗塚古墳は前方部が短く、帆立貝のような形をした前方後円墳です。後円部は2段に築かれ、後円部南側のくびれ部寄りには造り出しがあります。周囲の濠は、公園造成時に復元されたものです。

小石が敷かれた墳丘のテラスには円筒埴輪列が巡り、その前には広い間隔で形象埴輪が立てられていました。造り出しの周辺からは円筒埴輪のほか、家形や盾形、草摺形、鶏形、石見型埴輪など様々な形象埴輪がまとめて出土し、旗塚古墳においても大型の前方後円墳と同様の、埴輪を使った祭祀が行われていたと推測されます。

Hatazuka Kofun

Period Mid-5th century
Mound shape Scallop shell-shaped mounded tomb
Mound size Length: 57.9 m, Height (round rear part): 3.8 m
Designated as a national Historic Site as part of "Moju Kofun" on 18 March 2014

Hatazuka Kofun is a scallop-shaped tomb, which is one type of keyhole-shaped tomb with a shorter square front part. The round rear part has two tiers, and a projection is attached to the round section side of the southern constricted part. The surrounding moat and the square section were reconstructed at the time the park was developed.

A row of cylindrical *haniwa* (earthenware funerary sculptures), as well as representational *haniwa* in front of them, were arranged on the terrace of the round section. From around the projection, cylindrical *haniwa* and a wide variety of representational *haniwa*, including examples in the shapes of house, shield, tuille and fowl, were unearthed. Thus, it is thought that rituals using such a variety of *haniwa*, which were commonly held at large keyhole-shaped tombs, also took place at this small Hatazuka Kofun.



後円部テラスの円筒埴輪列



造り出しの検出状況
Projection



形象埴輪(石見型埴輪)

仁徳天皇陵古墳(マウス):西へ約350m 仁徳天皇陵古墳(拝所):北へ約750m

右手の前方部を取り巻く濠を見たところ



天王古墳

ここが天王古墳/方墳/反正天皇陵古墳の陪塚とされることから5世紀中頃の築造と思われる/説明板がある



田出井山古墳（反正天皇陵古墳）の陪塚と考えられる一辺9m、高さ3mの規模の方墳です。現在は家々に取り囲まれています。本来はもう少し規模が大きく、濠がめぐっていたと推定されます。百舌鳥古墳群は多数の前方後円墳・円墳で構成され、方墳は鈴山・天王古墳以外には4基を数えるのみです。

天王の名称は、このあたりにあった向井神社の別称「天王社」によるものでしょう。

向井神社は行基の開創と伝えられる向泉寺が別当で、向井領の氏神として広い境内でしたが、明治末年に方違神社に合祀されました。

境内中央にあった常緑広葉樹クロガネモチは、胸高径1.1m、幹周3.5m、樹高12mの巨木です。樹齢400年以上と推定され、大阪府の天然記念物に指定されています。（東方50mの市道の西側歩道上にそびえます。）

こな塩梅



鈴山古墳

前方が鈴山古墳/方墳/反正天皇陵古墳の陪塚とされることから5世紀中頃の築造と思われる/説明坂がある



この鈴山古墳の北側(背後)には北三国ヶ丘遺跡が広がると云う

北三国ヶ丘遺跡は、この鈴山古墳の北側に広がります。室町時代の溝、墓、石敷遺構などが調査され、このあたりにあった向井神社に関する遺構かと考えられます。

鈴山古墳は近くの天王古墳とともに西側にある田出井山古墳(反正天皇陵古墳)の陪塚と考えられ、一辺16m、高さ3mの古墳で、幅5mの一重の濠に囲まれていたと推定されます。田出井山古墳は、百舌鳥古墳群の中では、7番目の規模の前方後円墳で群中もっとも北に位置し、全長148m、後円部径76m、後円部高さ14m、前方部幅110m、前方部高さ15m、現状では一重の水濠に囲まれています。昭和55年・61年の2回の発掘調査によって、現状の濠の外側にも濠があったことが分かりました。その幅12m、深さ1mをはかります。

百舌鳥古墳群は4世紀末から5世紀初めに乳の岡古墳が築造されたのがはじまりと考えられますが、田出井山古墳は前方部が高く、その幅の広い形状から、あるいは出土した埴輪・土器から5世紀のおわり頃に築造されたと考えられます。

堺市

こんな塩梅



左手の墳丘裾を見たところ



善右エ門山古墳

正面が善右エ門山古墳/方墳/5世紀中頃の築造



善右エ門山古墳

(ぜんえもんやまこふん)

善右エ門山古墳は、いたすけ古墳の後円部側の濠と接する位置に築かれた方墳です。墳丘の規模は明らかではありませんが、一辺30m以上、高さ2m以上程度に復元できます。墳丘は二段に築かれており、斜面には石が葺かれていたものと考えられます。テラス部分には円筒埴輪が2m間隔で立て並べられていました。古墳を周囲から区画する濠などの施設はなかったようです。

埋葬施設や副葬品は明らかになっていませんが、円筒埴輪の時期より5世紀中頃に築かれた古墳です。

その位置から、いたすけ古墳の被葬者と関連の深い人物が葬られているものと考えられます。

堺市教育委員会



こんな塩梅



別の角度から





応神天皇陵古墳

ここから応神天皇陵古墳に入っていく



宮内庁によって厳重に管理されている



前方に拝所の鳥居が見える



ここが応神天皇陵古墳(菅田御廟山古墳)の拝所/背後が前方後円墳の前方部



前方後円墳集成編年表によると6期(5世紀前半)の築造とされ、この古墳の被葬者は倭の五王の珍ではないかとされる反正天皇ではないかとも云われる



左手を見たところ



右手を見たところ



西側で前方部から後円部方向に見たところ/外濠跡と外堤跡(左手)



説明坂がある



史跡古市古墳群

おうじんてんのうりょうこ ふんがいてんがいてい

史跡 応神天皇陵古墳外濠外堤

应神天皇陵古坟外濠外堤 오진천황릉 고분 외호 외제(바깥 들) Ojin-tenno-ryo Kofun Outer moat and Outer bank



上空から見た応神天皇陵古墳



古市古墳群で最大の応神天皇陵古墳は、墳丘の長さが425mの前方後円墳で、堺市の仁徳天皇陵古墳(長さ486m)に次ぐ第2位の規模をもっています。3段に築かれた墳丘の高さは36mで、盛り土の量は全国一の約143万㎡と推定されます。

墳丘の周囲には二重の濠と堤を巡らし、複数の陪塚(付属の古墳)を配置しています。

古墳時代中期(5世紀前半)に築造されたと考えられ、規模や構造がもっとも発達した最盛期の巨大前方後円墳のすがたを示しています。

Ojin-tenno-ryo Kofun, measuring 425 meters long, is the second longest keyhole-shaped mound (kofun) in Japan after Nintoku-tenno-ryo Kofun (486 meters) in Sakai. In terms of mound volume, however, it is the largest, built to an impressive height of 36 meters and consisting of an estimated 1.43 million cubic meters of mounded earth. The mound has three tiers and projections are located on both sides of the central constricted part. This giant tomb is surrounded by a double moat, embankments, and multiple satellite or subsidiary tombs called Balcho.

This kofun is considered to have been constructed in the Middle Kofun period(5th century) and is a representative example of a giant keyhole tomb at the zenith of its development in scale and structure.

絵画と古写真で見る 応神天皇陵古墳のすがた



重要文化財 菅田宗庵縁起絵巻 菅田八幡宮所蔵
寛政10年(1798) 菅田宗庵画
 永享5(1433)年 室町幕府 第6代將軍 足利義教 奉納



谷村為海氏撮影(西から) 昭和5(1930)年
 堺市博物館提供



「河内名所図会」享和元(1801)年刊



末永雅雄博士撮影(西上空から) 昭和29(1954)年
 奈良県立橿原考古学研究所提供

こんな塩梅



振り返って見たところ



仲姫命陵古墳

前方の住宅の背後が仲姫命陵古墳(仲津山古墳)/前方後円墳



前方部手前にある拝所にやって来た/前方後円墳集成編年表によると5期(4世紀末)の築造とされ、この古墳の被葬者は仁徳天皇である可能性があるかもしれない



宮内庁によって厳重に管理されている



これが拝所



左手を見たところ



允恭天皇陵古墳

これは允恭天皇陵古墳(市野山古墳)/前方後円墳/前方部に沿った濠を見たところ



右手に前方部から後円部方向を見たところ/前方後円墳集成編年表によると7期(5世紀後半)の築造とされる



津堂城山古墳

前方が津堂城山古墳/前方後円墳/左手が前方部、右奥が後円部/花しょうぶ園となっている



前方後円墳集成編年表によると4期(4世紀後半)の築造とされ、この古墳の被葬者は仁徳天皇もしくは応神天皇の可能性もあるかもしれない



つどうしろやまこふん
津堂城山古墳

津堂城山古墳 쓰도시로야마 고분

Tsudo-shiroyama Kofun

百舌鳥
古市古墳群



1987年撮影



時代	古墳時代 中期前葉	国史跡 1958年1月21日指定
古墳の形	前方後円墳	藤井寺市津堂
墳丘の全長	210m	
出土したもの	円筒埴輪、水鳥形埴輪【重要文化財】、銅鏡(鏡)、刀剣、勾玉、木製品など	

古市古墳群内で最古の巨大古墳で、古市古墳群の最北端に位置しています。明治45年には後円部で竪穴式石槨が発見され、そこから巨大な長持形石棺が発掘されました。この古墳の最大の特徴は、墳丘に二重の濠と堤をめぐらせていることです。くびれ部には造出しが付けられています。東側内濠には3体の水鳥形埴輪を配した島状遺構も見つかっています。

Tsudo-shiroyama Kofun (Tsudo-Shiroyama Mounded Tomb)

Period: Early-Middle Kofun Period
Mounded tomb shape: Keyhole Kofun
Total Length of the mound: 210 m
Excavated artifacts: Cylindrical haniwa (earthenware funerary figure), waterfowl-shaped haniwa, bronze mirror, blades, comma-shaped bead, etc.

Located in the northernmost tip of the Furuichi Mounded Tomb Group, this is the oldest extra-large mounded tomb in the group. An extra-large, chest-shaped stone coffin (kingly coffin) has been discovered. In addition, three waterfowl-shaped haniwa (earthenware funerary figures) in the size of an actual whistling swan have been discovered, and they have been designated as national important cultural properties.

詳しい情報が取得できます
For detailed information, please check



長持形石棺
【大阪府】大阪府史跡名勝天然記念物調査報告 第五輯 (1984年) より転載



石棺内の束【宮内庁】



竪穴式石槨の天井石



藤井寺市
Fujiidera city
平成28年3月

WELCOME TO FURUICHI-KOFUNGUN



正面が前方部



右手に後円部方向を見たところ



後円部から前方部方向を見たところ



その右手を見たところ/後円部を濠が取り巻いている



その更に先はこんな塩梅



そこで振り返って前方部方向を見たところ



仲哀天皇陵古墳

ここは仲哀天皇陵古墳(岡ミサンザイ古墳)の拝所/前方後円墳/背後が前方部



左手から見たところ



右手から見たところ



宮内庁によって厳重に管理されている



前方後円墳集成編年表によると8期(5世紀末)の築造とされ、応神天皇の父親に当る仲哀天皇の実年代とはズレがあり、この古墳の被葬者は倭の五王の武である雄略天皇ではないかと云う



こな塩梅



ここには古墳時代中期と記されているが？/大阪夏の陣では第二の真田丸として改変されてしまっているようだ



ちゅうあいてんのうりよう

こふん

仲哀天皇陵 (岡ミサンザイ) 古墳 仲哀天皇陵古墳 주아이천황릉 고분 Chuai-tenno-ryo Kofun (Mausoleum of Emperor Chuai)



2010年撮影

時代 古墳時代 中期
古墳の形 前方後円墳
墳丘の全長 245m
出土したもの 円筒埴輪、家・蓋・船・馬・人物形などの形象埴輪

藤井寺市藤井寺4丁

墳丘は3段に築かれ、くびれ部の東側のみにつくりだの造出しが設けられています。室町時代に城に利用されたため墳丘は改変を受けています。墳丘の周囲には幅の広い濠が巡り、堤上にも円筒埴輪が並べられました。墳丘や堤からは円筒埴輪、形象埴輪が出土しています。築造時期については、諸説あるものの中期と考えられています。

Chuai-tenno-ryo Kofun (Mausoleum of Emperor Chuai)
(Oka Misanzai Mounded Tomb)

Period: Middle Kofun Period
Mounded tomb shape: Keyhole Kofun
Total Length of the mound: 245 m
Excavated artifacts: Cylindrical haniwa (earthenware funerary figure), as well as representational haniwa, such as house-shaped, sunshade-shaped, ship-shaped, horse-shaped, and human-shaped haniwa

詳しい情報が取得できます
For detailed information, please check



付近地形図



1948年撮影



室町前期の大樹権左様水濁 (1987年の調査)



人物埴輪



WELCOME TO FURUICHI-KOFUNGUN



右手に前方部を見たところ



左手に前方部を見たところ



前方部の左隅の辺りに標柱が立っていた



そこで前方部に沿った濠を見たところ/正面やや右手前方に先程の拝所が見える



左手に前方部から後円部方向を見たところ



大鳥塚古墳

正面が大鳥塚古墳/前方後円墳/前方後円墳集成編年表によると5期(5世紀前半)の築造とされる





おおとりづか こふん

大鳥塚古墳

大鳥塚古墳 오토리즈카 고분

古墳群
古市古墳群

Otorizuka Kofun



1977年撮影

時代	古墳時代 中期中葉	国史跡 1956年9月22日指定
古墳の形	前方後円墳	藤井寺市古室2丁目
墳丘長	110m	
出土したもの	銅鏡2面、鉄剣、鉄刀、鉄矛、鉄鏃、円筒埴輪、家・蓋・盾・鞆・冑形などの形象埴輪	

墳丘は百舌鳥・古市古墳群では変則的で、後円部が3段、前方部が2段に築かれ、後円部高が著しく高いことが特徴です。くびれ部の両側には造出しが設けられています。埋葬施設は後円部に粘土槨が存在し、刀、剣、矛、鏃など鉄製武器が副葬されていたようです。墳丘の周囲には、幅の狭い馬蹄形の濠が巡ります。濠は当初から水を湛えていなかったものと推測され、埋没保存されています。円筒埴輪、形象埴輪が出土しています。

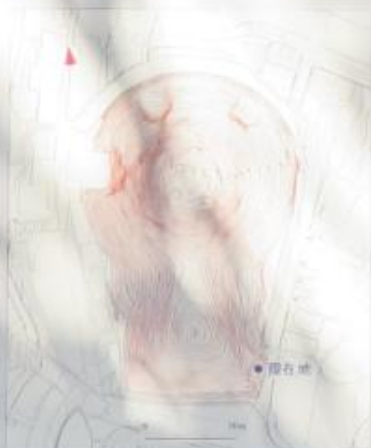
詳しい情報が取得できます
For detailed information,
please check



Otorizuka Kofun (Otorizuka Mounded Tomb)

Period: Mid-Middle Kofun Period
Mounded tomb shape: Keyhole Kofun
Length of the mound: 110 m
Excavated artifacts: Two bronze mirrors, iron blades, iron swords, iron spears, iron arrowheads, cylindrical haniwa (earthenware funerary figure), and representational haniwa, such as house-shaped, sunshade-shaped, shield-shaped, quiver-shaped, and helmet-shaped haniwa

The mound is exceptional among the tombs of the Mozu-Furuichi Kofun Group, with its round section built in three tiers and its square section in two tiers. Its remarkably high round section is also unique. Projections are attached to both sides of its constricted part. There are reports of a clay coffin enclosure for the burial facility; iron weapons such as single- and double-edged swords and arrowheads were included as burial goods. A narrow horseshoe-shaped moat surrounds the mound. The moat is not believed to have contained water from the beginning; it is currently preserved underground. Both cylindrical and representational haniwa have been excavated.



雲形四獣鏡(庫11組)
[宮内庁所蔵]



墓石検出状況
(1984年の調査)



藤井寺市
Fujiidera city
平成28年3月

標柱が立っている



右手前が前方部、左奥が後円部



前方部に沿った濠跡を見たところ



古室山古墳

これは古室山古墳/前方後円墳/前方後円墳集成編年表によると4期(4世紀末)の築造とされる/左奥が後円部、右手前が前方部



標柱と説明板が立っている





こむろやまこふん

古室山古墳

古室山古墳 고무로야마 고분

Komuroyama Kofun

百舌鳥
古市古墳群



1988年撮影



古市古墳群分布図

時代 古墳時代 中期前葉
 古墳の形 前方後円墳
 墳丘長 150m
 出土したもの 円筒埴輪、家・盾・蓋形埴輪

国史跡 1956年9月22日指定
 藤井寺市古室2丁目

墳丘は3段に築かれ、東側のくびれ部には造出しが認められます。埋葬施設は、墳頂部に石材が散在していたことから竪穴式石槨である可能性が推測されます。

墳丘の周囲には濠が巡るが、濠の平面形が墳丘の形に沿ってくびれていることが確認されています。墳丘のテラスには円筒埴輪列が残存しており、形象埴輪も出土しています。

Komuroyama Kofun (Komuroyama Mounded Tomb)

Period: Early-Middle Kofun Period
 Mounded tomb shape: Keyhole Kofun
 Length of the mound: 150 m
 Excavated artifacts: Cylindrical haniwa (earthenware funerary figure), as well as house-shaped, shield-shaped, and sunshade-shaped haniwa

詳しい情報が取得できます
 For detailed information,
 please check



The mound was built in three tiers, and a projection is attached to the constricted part on the east side. The scattering of stone materials atop the tomb indicates that a pit-style stone burial chamber may have been used for the burial facility.

A single moat surrounds the mound. It has been confirmed that the outline of the moat, when viewed from above, closely matches that of the mound, becoming narrower near the constricted part.

Rows of cylindrical haniwa remain on the mound terraces, and representational haniwa were also unearthed.



1985年撮影



後円部基石検出状況
(1986年の調査)



藤井寺市
 Fujiidera city
 平成28年3月

WELCOME TO FURUICHI-KOFUNGUN



アップで見たところ/左手が後円部、右手が前方部



反対側から見たところ/左手が前方部、右手が後円部



前方部方向を見たところ



後円部方向を見たところ



後円部を濠跡が取り巻いている様子が見て取れる



振り返って前方部方向を見たところ



白鳥陵古墳

正面が白鳥陵古墳(前の山古墳あるいは軽里大塚古墳とも呼ばれる)/前方後円墳/左奥が後円部、右手前が前方部





ウォーキング・トレイル

— 悠久の時と水の流れをめぐる —

「時のルート」



白鳥神社 (しらとりじんじや)

日本武尊 (ヤマトタケルノミコト) と高皇産靈 (スサノオノミコト) を祭る神社。

峯ヶ塚古墳 (みねがづかこふん)

5世紀末～6世紀の初めに造られた大王級の前方後円墳と考えられている。

小岡山古墳 (こぐちやまこふん)

7世紀後半に造られた横口式石室をもつ円墳。

清寧陵古墳 (せいねいりょうこふん)

巡礼街道に亘っており、8世紀に造られた古市古墳群最終段階の古墳。

古市大溝 (ふるいちおおみぞ)

古代の灌漑水路あるいは運河と考えられており、5・6・7世紀に築造されたと推定がある。

翠鳥舎遺跡 (すいちょうえんいせき)

約2万年前の石器製作跡。旧石器時代の遺跡としては、国内最大規模を誇る。

墓山古墳 (はかやまこふん)

5世紀前半の前方後円墳で周囲に4つの陪塚がある。滑石製の勾玉や滑石製の鏡の形跡が出土している。

向島山古墳 (むこうがやまこふん)

墓山古墳の陪塚の一つで、出土した遺物から墓山古墳とほぼ同時期に築造されたと考えられる。

西馬塚古墳 (にしうまづかこふん)

5世紀末に築造された方墳で、墳丘を造る溝溝から、多量の埴輪や土器が出土した。

菅田白鳥塚輪制作遺跡 (すがたしらとりづかりんせき)

5世紀後半から6世紀前半にかけて埴輪を焼いた窯跡で、古市古墳群の大型古墳等に並べられた。

竹内街道 (たけのうちかいどう)

鎌古天皇の時代には畿内古の官道 (国道) として整備。飛鳥時代から東西交通の大動脈であった。

白鳥陵古墳 (前の山古墳)

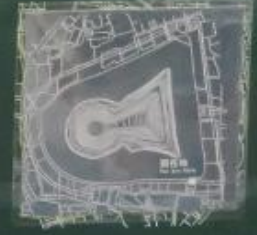
白鳥陵古墳は、墳丘長190mの前方後円墳である。古墳が造られた年代は、前方部が後円部より高い墳丘の形や、発見された埴輪の特徴から古墳時代後期(約1,500年前)と考えられている。この古墳は現在、宮内庁によって景行天皇の皇子であった「日本武尊」の陵墓とされている。また「記紀」には日本武尊の白鳥伝説が記されている。(白鳥伝説)日本武尊が全国各地に遠征し、その帰途伊勢の能褒野で息をひきとった。武尊は、白鳥に姿を変え大和の琴原原を經由し古市に飛来したことが日本書紀に記されている。その後、埴生の丘に羽を曳くがごとく飛び去ったという伝説である。この白鳥伝説が「羽曳野」の地名の由来になっている。



HAKUCHŌRYŌ KOFUN (MOUNDED TOMB SO CALLED SWAN'S MAUSOLEUM)

Hakuchōryō Kofun is typical keyhole-shaped mounded tomb about 1,500 years ago. The size is 190m in length, 160m breadth of square frontal mound, and 105m in diameters of round mound.

This kofun has been authorized by the Imperial Household Agency as the mausoleum of legendary prince Yamatotakeru-no-mikoto. This is because of a legend written in the Nihonshoki (The Chronicles of Japan). It says that after his death at Nobono in Ise, Yamatotakeru-no-mikoto changed his figure into swan and flew to Furuichi in Kawachi through Kotohikihara in Yamato. At each place, a mausoleum for him was built and, the one at Furuichi is presumably this Hakuchōryō Kofun mentioned in the Nihonshoki



白鳥陵古墳全景

前方後円墳集成編年表によると7期(5世紀後半)の築造とされる

白鳥陵古墳 (前の山古墳)

白鳥陵古墳は、墳丘長190mの前方後円墳である。古墳が造られた年代は、前方部が後円部より高い墳丘の形や、発見された埴輪の特徴から古墳時代後期(約1,500年前)と考えられている。この古墳は現在、宮内庁によって景行天皇の皇子であった「日本武尊」の陵墓とされている。また「記紀」には日本武尊の白鳥伝説が記されている。(白鳥伝説)日本武尊が全国各地に遠征し、その帰途伊勢の能褒野で息をひきとった。武尊は、白鳥に姿を変え大和の琴弾原を經由し古市に飛来したことが日本書紀に記されている。その後、埴生の丘に羽を曳くがごとく飛び去ったという伝説である。この白鳥伝説が「羽曳野」の地名の由来になっている。

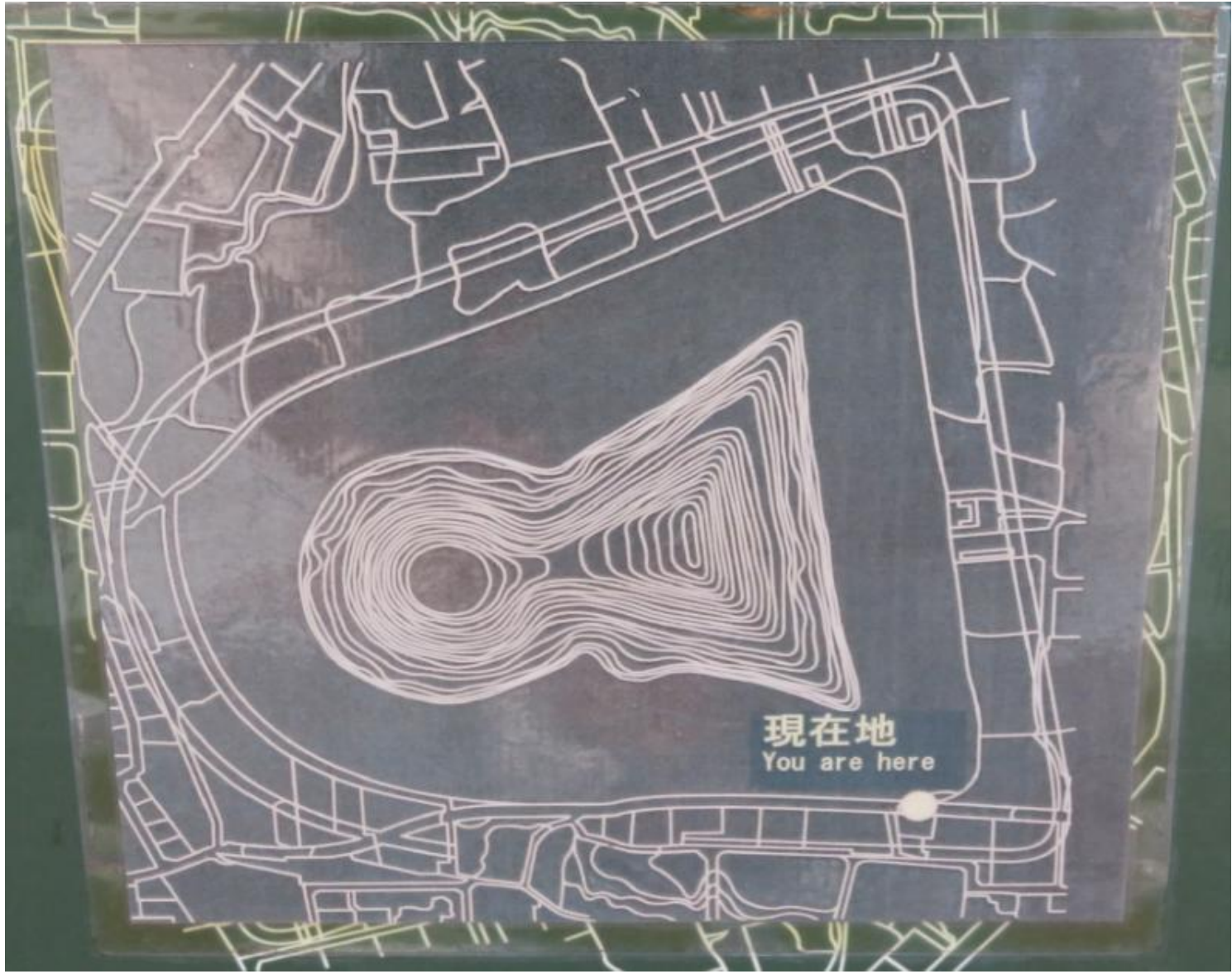
ドローン体験

上空からの風景がご覧いただけます





白鳥陵古墳全景



現在地
You are here

左手に前方部から後円部方向を見たところ



右手の前方部に沿った濠跡を見たところ



参考ホームページ

http://www.mozu-furuichi.jp/learn/mozu_furuichi.html

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%BE%E8%88%8C%E9%B3%A5%E3%83%BB%E5%8F%A4%E5%B8%82%E5%8F%A4%E5%A2%B3%E7%BE%A4>

<http://www.asuka-tobira.com/kofun/kofun.html>

<http://www.geocities.jp/mb1527/N3-25-goou.html>

<http://www2.wbs.ne.jp/~jrjr/nihonsi-1-4-3.htm>

http://inoues.net/tenno/tenno_meguri.html

試案

参考/大東文化大学オープンカレッジ 平成30年春「百舌鳥・古市古墳群の形成」講座資料より

※仲津山の被葬者は仁徳、津堂城山の被葬者は仁徳あるいは応神か？

須恵器の編年	倭の五王(没年)	大王	古墳築造時期	実年代	前方後円墳集成編年
布留式期			(古市) 津堂城山		4期 4世紀後半
TG232			(古市) 仲津山	410年	5期 4世紀末
TG232			(百舌鳥) 上石津ミサンザイ	415年	5期
TK73				420年	6期
TK73	讚(429年頃)	履中	(古市) 誉田御廟山	430年	6期
TK216				430年	7期
TK216	珍(442年頃)	反正	(百舌鳥) 大仙陵	450年	
TK208				450年	
TK208	済(459年頃)	允恭	(百舌鳥) 土師ニサンザイ	470年	7期 5世紀後半
TK23	興(469年以前)	安康		470年	8期 5世紀末
TK23			(古市) 岡ミサンザイ	490年	
TK47	武(491年頃)	雄略		490年	
TK47				510年	8期
MT15				510年	9期
MT15				530年	
TK10					